

「いたて便り」Vol.1

土から復興を考える



「までいの心で」

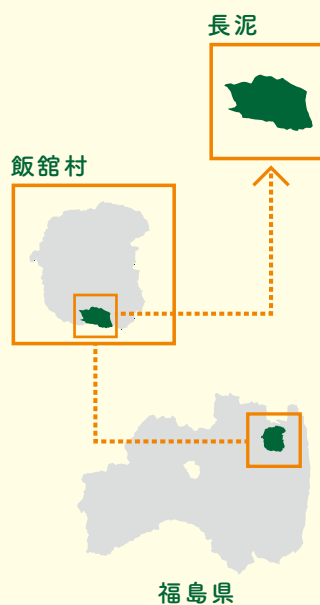
飯舘村には20の行政区があります。長泥は村の南に位置する地区で、いまだ住民の方が戻れない場所ではありますが、そこでは環境再生に向けたさまざまな施策が進められています。除染した土の活用に向けた、国の実証事業もその一つです。もちろん反対や不安の声も上がりましたが、しかし私たちは、支え合い、助け合いながら前へ進むことが、飯舘の、浜通りの、そして福島再生に必ずつながると考え、将来を見据えた上で必要な事業として、長泥の皆様と相談して、村は実施に至っています。



飯舘村長 菅野典雄

「までいの村」から。

飯舘村には古くから「までい」という言葉があります。「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という意味の方言で、私たちの価値観や生き方を支えています。長泥の実証事業においても、「までい」の心と行動で進められることを願い、私たちはその経過と成果をしっかりと見届けていきたいと考えています。



長泥の農地では、様々な植物が栽培されています。

例えば、「ジャイアントミスカンサス」は、その名の通り4メートル以上にも成長する、ススキ属の多年草。バイオマス発電のための資源として期待されています。



植物の栽培には、農地を耕すところから種まき、刈り入れまで、長泥地区の住民の皆さんの地元ならではの知恵や経験をお借りして進めています。



環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。